

事業別の明細

組合員活動

支店運営委員会・青年部・女性部

支店運営委員会

管内9支店で支店運営委員会を定期的に開催しました。地域の組合員が支店運営委員会の構成員となり、支店を中心とした地域活動の活性化を進めるための協議やイベントを企画・開催しました。

青年部

J A 静岡青壮年連盟3か年計画「新時代への心技体～Challenge and Grow Together～」を基本目標に活動を行いました。

部員の農業経営知識向上へ向け、労災保険制度や農業に関する共済の研修会を開催しました。また、農業を将来へ継承するため、小学生等を対象とした食農教育活動等を実施しました。

女性部

J A 静岡女性組織協議会3か年計画「～元気で豊かな地域をみんなの力で♡～」を基本目標に、食を守り農業を支える活動、豊かな地域社会の実現に向けた助けあい活動やSDGsを意識した地域貢献活動、組織活性化に向けた仲間づくりに取り組みました。

組合員活動

幹旋図書・広報

幹旋図書

農業やJ A をめぐる情勢、組合員活動への理解を深めるためのツールとして「日本農業新聞」、「家の光図書」の普及活動に努めました。

また、最年少野菜ソムリエプロである緒方湊氏を講師として招き、管内の小学生とその親世代に対して「国消国産」や「食と農」への関心を高めることを目的に、「J A 遠州夢咲ちゃぐりんフェスタ家の光大会」を開催しました。

広 報

広報誌「夢咲」では生産者や女性部・青年部の部員、支店運営委員会や支店ふれあい活動に焦点を当てた記事や、J A 事業、農畜産物の特集などにより地域農業やJ A の取り組みについてわかりやすい情報発信に努めました。令和7年8月には創刊400号を発行することができ、同号は静岡県広報協会主催の令和7年度静岡県広報コンクール「広報誌（団体）部門」で優秀賞を受賞しました。

コミュニティ誌「ミナクルランド」やInstagram、LINEなどのSNSを活用し、「国消国産」の浸透に向けて農畜産物の魅力を発信しました。

また、広報モニターからの意見聴取や施設見学会、小学生の職業体験として「こども記者クラブ」を行いました。J A 夢咲フェスティバルを開催し、組合員や地域の幅広い世代の方に向けてこの地域の農業の魅力について広報することで「農業振興の応援団づくり」につなげました。

農地利用集積円滑化事業

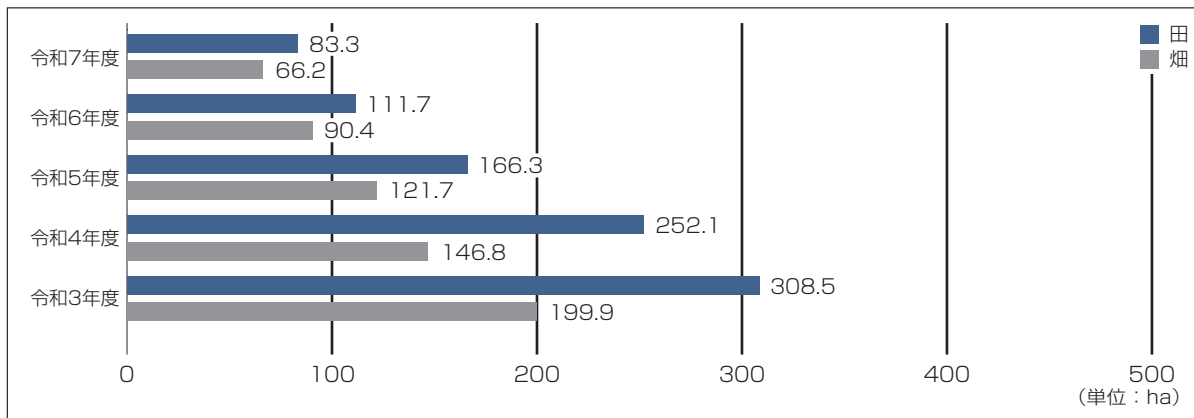
耕作もしくは管理できなくなった農用地を所有者から農用地の有効利用や規模拡大による農業経営の効率化を進める担い手へ、集積・集約化を進めるため調整作業や利用権設定等の業務に取り組んでいます。

なお、本事業は農地中間管理事業へ統合したため、令和12年を最終として取り扱いが年々減少していきます。

農地利用集積円滑化事業年度別面積

(単位：ha)

品目	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
田	308.5	252.1	166.3	111.7	83.3
畑	199.9	146.8	121.7	90.4	66.2
合計	508.4	398.9	288.0	202.1	149.5



福祉

「利用者様の今の生活を維持・向上できるように、こうしたい・こうありたいを共に考え、利用者様の夢を拓きます」を理念に掲げ、自立支援に向けた福祉事業に取り組みました。今年度は、広報「夢咲」へデイサービスの施設紹介特集の掲載に加え、新たにデジタル広告を作成しました。多くの方の目に留まるよう中東遠医療センター内のモニターを活用し、JA遠州夢咲の福祉事業の認知度向上と新たな利用者や重度要介護者の利用増加をめざす取り組みに努めました。また、JA夢咲フェスティバル参加等で自立支援への取り組みを積極的にPRしました。

今年度も、新型コロナウイルスやインフルエンザの感染拡大予防対策のため、職員と利用者様で衛生管理を徹底し、利用者様とご家族に安心していただける介護サービスを提供しました。

居宅介護支援においては、介護支援専門員4名で介護相談に応じ、自立支援の目標設定を意識した適切な介護プランの提供をしたことで昨年以上の実績となりました。地域包括ケアシステム構築については、菊川市・掛川市・御前崎市のケアマネ協議会の活動に参加し、サービス提供事業者としての役割を確認して、関係機関との連携強化を図りました。

営農販売・利用

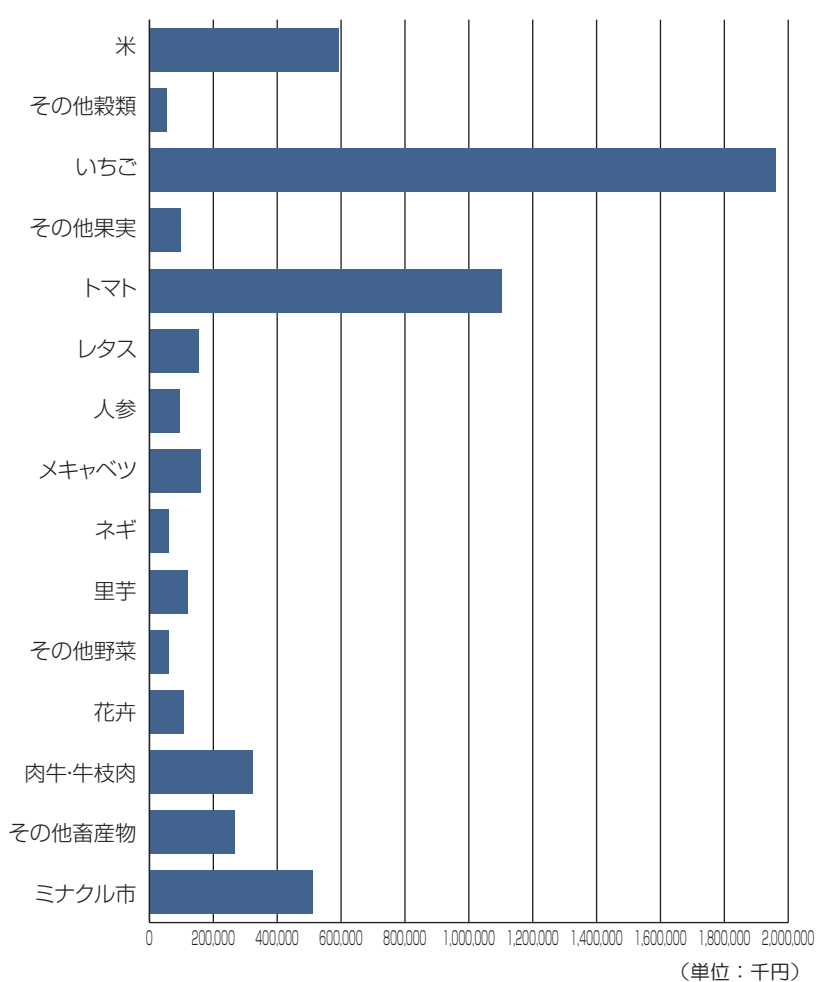
販売事業は、物価高騰の影響を受けて消費者の節約志向が高まり、厳しい販売環境が続く状況でしたが、市場への正確な産地情報の発信や情報交換を行い有利販売に努めました。また、夢咲農産物の強みを活かした営業活動を通じ、契約販売や直接販売の拡大に取り組み農家組合員の所得向上に努めました。

利用事業では、各施設の定期的な点検と修繕を実施し、繁忙期には夜間や早朝も施設を稼働して、安定した出荷・調整作業に努めました。

ミナクル市では、5JA事業連携によるJA間でのレシートラリーや、競争力のある価格設定にて地元産米を販売するなど魅力ある店舗づくりに努めました。また、学校給食やホテル・レストランへの納品、量販店への直接販売など、安全・安心・新鮮な農畜産物を多くのお客様にご利用いただきました。

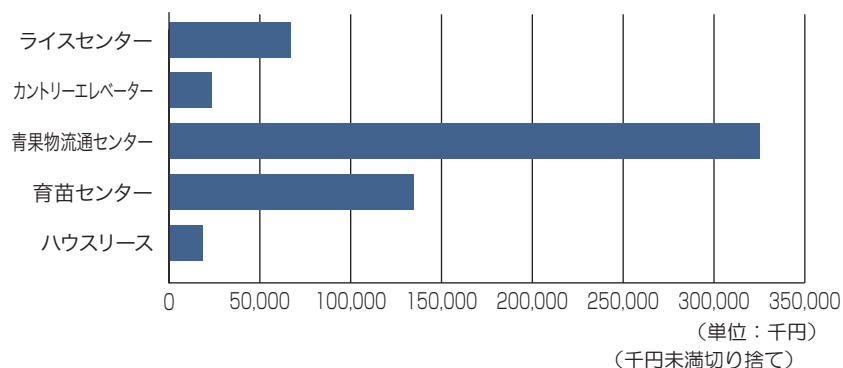
農畜産物販売取扱実績 (単位：千円)

品目	取扱高	割合
米	592,938	10.45%
その他穀類	54,016	0.95%
いちご	1,962,857	34.58%
その他果実	97,366	1.72%
トマト	1,103,792	19.45%
レタス	153,591	2.71%
人参	95,207	1.68%
メキャベツ	160,159	2.82%
ネギ	62,127	1.09%
里芋	120,824	2.13%
その他野菜	61,178	1.08%
花卉	108,057	1.90%
肉牛・牛枝肉	324,070	5.71%
その他畜産物	268,520	4.73%
ミナクル市	510,630	9.00%
取扱高合計	5,675,340	100.00%
取扱高のうち買取販売額	162,797	



利用事業取扱実績 (単位：千円)

品目	取扱高	割合
ライセンスター	66,965	11.78%
カントリーエレベーター	23,559	4.14%
青果物流通センター	324,938	57.14%
育苗センター	134,802	23.71%
ハウスリース	18,337	3.23%
合計	568,603	100.00%



営農戦略・指導

多様な営農と地域農業の活性化による持続可能な農業づくりを念頭に、農産物の生産拡大を通じ農家組合員の所得向上をめざし、併せて「みどりの食料システム戦略」に則した活動を模索することで環境への配慮、コスト削減をめざしました。

また、行政との連携により担い手確保・育成と農産物の生産拡大に向けた支援、農業生産基盤の維持・強化に取り組みました。

○農業振興支援事業

- ・生産資材費をはじめとした経費の増大緩和を図るべく国・県・市等への政策要請に加え、燃油価格高騰対策支援事業等を活用し農業者を支援しました。
(施設園芸セーフティネット構築事業：102名の申請を受け付け県へ報告しました。)
- ・地域生産振興を図るため、アグリグロウアップ事業を実施し申請者99名に補助額約1,730万円の支援を行いました。
- ・新規栽培者が持続的な営農ができる体制づくりを支援しました。
- ・農業者の経営改善を図るために借り入れた農業資金に対して利子助成を行いました。
- ・近年増加する有害鳥獣被害やジャンボタニシによる被害を軽減するために被害防止対策支援事業を行いました。
- ・昨今の異常気象を鑑み、各作物にて高温対策研修会の開催や有効資材の提案や導入、対策技術の試験的導入を図りました。
- ・夢咲中古ビニールハウス施設情報バンクにおいては、2件がマッチングしました。

○担い手育成と雇用促進

- ・「がんばる新農業人支援事業（新規就農者支援事業）」では研修生1名がいちごの経営をスタートしました。
- ・夢咲あぐりパート事業（無料職業紹介所）では、求人誌・求人サイトを活用し広域に募集案内を行い施設園芸作物等の農作業求人67名に対して、求職者106名の紹介を行い49名が成立しました。
- ・新たな担い手の創出・確保およびJAファンの獲得を目的として、アグリセミナー（基礎編）を開催し、20名が参加しました。次年度からは販売を目的とした応用編も開催予定です。
- ・管内農業法人に対しプロジェクトチームによるヒアリングを開始しました。（管内19法人）
今後も法人との関係性強化を図り、課題の共有や要望調査を実施し部門間連携による総合的な支援を実施していきます。
- ・より効率的な事務手続きの実施および労基法改正時の適切な対応を行っていくため、当JAがこれまで扱ってきた労災保険事務をJA静岡中央会労働保険事務組合に委託しました。なお、事故発生時の対応や年度更新手続きについては、これまでどおり当JAが窓口となり対応します。

指導収支の内訳

（単位：千円）

支 出				収 入			
科目	当期予算	当期実績	比較増減	科目	当期予算	当期実績	比較増減
営農改善費	66,450	57,308	△ 9,141	補助金	2,300	3,043	743
教育情報費	3,070	2,537	△ 532	実費収入	12,500	17,630	5,130
生活文化費	8,500	5,227	△ 3,272	その他指導収益	500	1,474	974
組織活動費	10,000	6,484	△ 3,515	一般会計受入金	72,720	49,409	△ 23,310
合 計	88,020	71,558	△ 16,461	合 計	88,020	71,558	△ 16,461

（千円未満切り捨て）

茶 指導・加工・流通販売

茶産地として実需者のニーズに応えるべく生産構造の転換や担い手を中心とした効率の良い茶生産に向けた組織再編、茶園集積、改植を進めました。また、コスト削減と食品安全を保証するための生産管理を実践し、お客様に信頼される遠州夢茶の提供に努めました。

世界的な抹茶需要の高まりにより海外輸出シェアは増加し、煎茶生産から抹茶の原料である碾茶生産へ取り組む荒茶工場が県内外で増えてきました。そのため「夢咲Teaイノベーション推進協議会」を中心に管内での碾茶生産に向けて検討を行い、生産者および取引先との連携を図りながら補助事業の活用も含めて計画を進めています。

碾茶生産への転換や高齢化等による生産減少の影響で在庫が不足したことから飲料原料を中心とした二番茶や秋冬番茶の需要が旺盛となり、過去にない高単価での取引となりました。しかし依然として燃料をはじめとする資材費の高騰が経営を圧迫しています。そのため燃油高騰に対する補助事業の申請支援を確実に行い、受注型生産による茶工場経営の安定や収益性の高い茶業経営による茶業者の所得向上と消費や流通の要望に応えられる生産基盤の確保に向けたサポートを行いました。

リーフ茶の需要が減少するなか、「GI深蒸し菊川茶」のさらなる認知度向上を図るため、イベントでの積極的な販売促進活動や共同企画・食育活動を実施しました。深蒸し茶産地とお茶の効能をアピールし、お茶に親しんでいただく機会を増やすことで販路拡大に取り組みました。

茶業研究所の利用状況

	利用組織数	利用回数
製茶利用 ^{注1}	11 組織	19 回
仕上利用 ^{注2}	8 組織	8 回

注1 品評会製造・品種製造・製造試験

注2 品評会調整

乗用型茶園管理機械導入状況

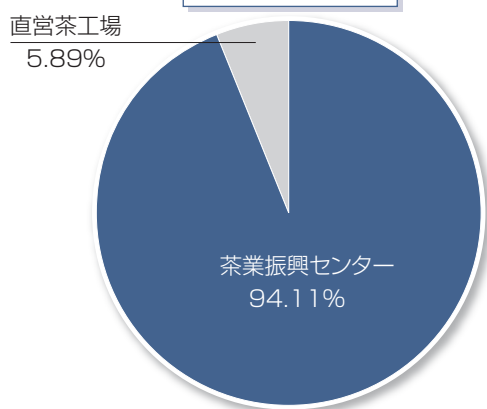
	本年導入数	導入累計数
乗用摘採機	1 台	783 台
乗用防除機	0 台	29 台
複合管理機	2 台	30 台

※メーカー聞き取り調査による

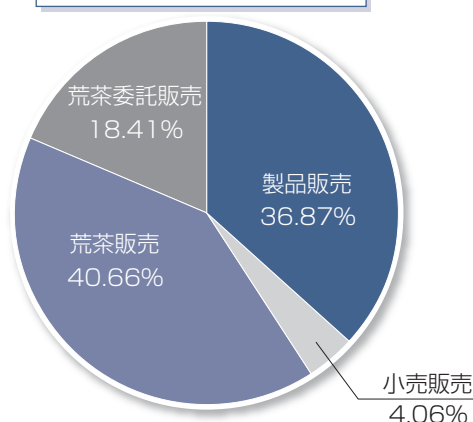
分析指導事業状況

	分析時期	分析検体数
茶園土壌分析	夏期	127 検体
	冬期	275 検体
荒茶残留分析	1茶	13 検体
	2茶	16 検体

営農部取扱実績



茶業振興センター取扱実績



営農部取扱実績

(単位：千円)

項目	金額
茶業振興センター	1,589,855
直営茶工場	99,503
営農部合計	1,689,358

茶業振興センター取扱実績 (単位：千円)

項目	金額
製品販売	586,195
小売販売	64,478
荒茶販売	646,503
荒茶委託販売	292,677
合計	1,589,855

※荒茶委託販売については、損益計算書上は販売事業として表示し、加工目的のものは加工事業に表示しています。

(千円未満切り捨て)

購 買

購買事業全体では、JAポータルを始めとするデジタル技術の活用推進に引き続き取り組みました。

生産購買は、肥料・農薬を中心に据え置き価格の設定や特別価格での予約推進に努め、農家組合員の生産コストを抑制し、所得向上を基本とした業務に取り組みました。また、営農経済センターでは、出向く体制の強化や出迎える体制を強化し情報発信を実践しました。

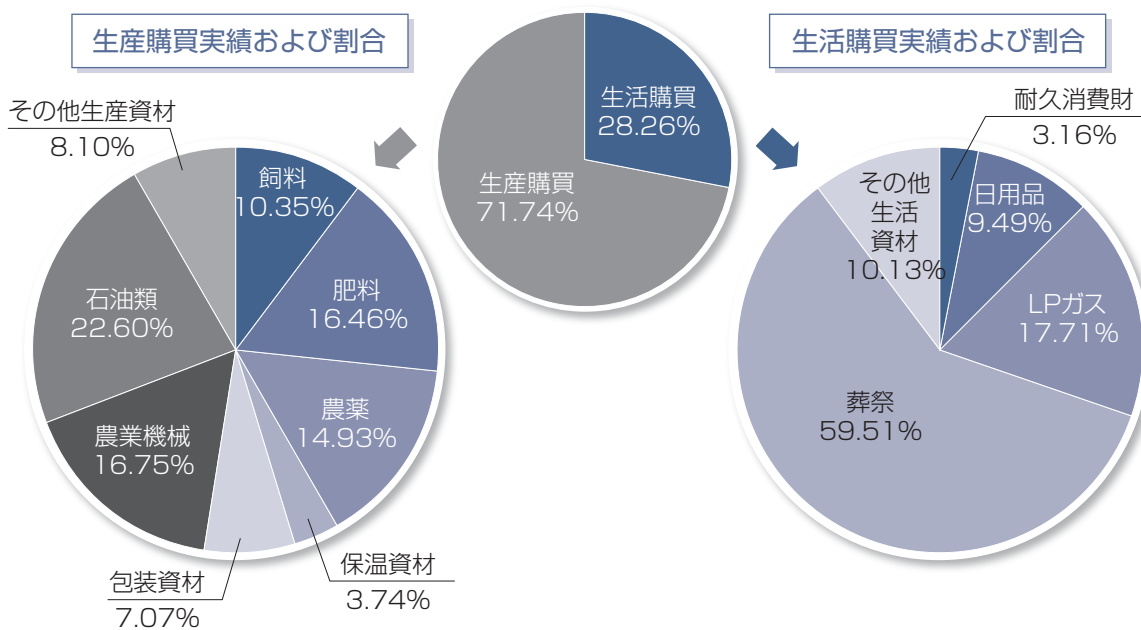
生活購買は、生活環境に配慮したハウスメンテナンス事業を進め、豊かな暮らしをサポートしました。

葬祭事業は、やすらぎ会員（組合員）や地域の皆さまに寄り添い、事前相談会の開催や真心を込めた葬儀提案で、信頼と安心・地域密着サービスの提供を実施しました。

購買品取扱実績

(単位：千円)

種 類	令和6年度	令和7年度	前年対比
生産購買	3,059,030	3,212,954	105.03%
生活購買	1,396,841	1,265,425	90.59%
合 計	4,455,872	4,478,380	100.50%



(単位：千円)

(単位：千円)

種 目	供給高
飼 料	332,670
肥 料	528,691
農 薬	479,715
保 温 資 材	120,044
包 装 資 材	227,289
農 業 機 械	538,178
石 油 類	725,955
その他生産資材	260,408

種 目	供給高
耐 久 消 費 財	39,968
日 用 品	120,129
L P ガ ス	224,124
葬 祭	752,999
その他生活資材	128,203

(千円未満切り捨て)

金融

地域に密着した金融機関をめざし、組合員を中心とする利用者および地域の農業や暮らしの発展に貢献するため、金融商品や機能サービスの提供を行い、窓口にはJAバンクSmileNavi（タブレット）を設置するなど利用者の利便性向上に努めました。

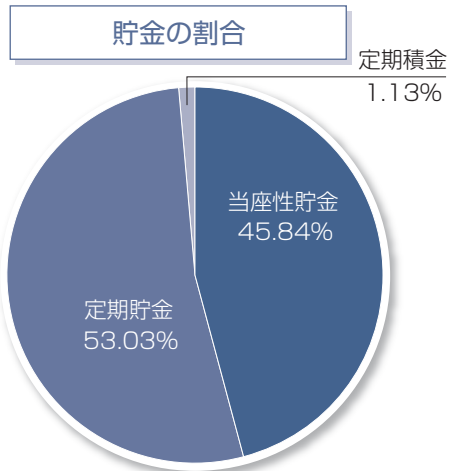
貯金については夏期・冬期にキャンペーンを実施し、金利に加えて管内特産のお茶関連商品を進呈するなどJAらしい商品性で定期貯金を販売しました。年金では新規受給予定者への個別訪問と社労士による休日相談会を開催しました。また、紹介キャンペーンにより年金友の会会員から多くの新規会員の紹介をいただきました。さらに優待旅行やグラウンドゴルフ大会、ゴルフ大会などを通じ、年金友の会会員の親睦と満足度向上に向けた会員サービスを行いました。給与振込では、振込者へのお礼訪問と若年層へのアプローチで、ニーズに合ったライフプランサポートを実施しました。

しかし、金利のある世界に戻り、他金融機関との金利競争は想定以上で、また、貯金以外での運用も増加し、物価高による生活費の支出や相続による貯金流出と合わせ、貯金残高は減少に歯止めのかからない厳しい状況となりました。

貸出については「農業メインバンク」として農業者ニーズに対応した農業資金の適切な商品提案と訪問活動を行いました。また、地域農業の担い手農業者に加え管内農業法人にも営業を実施しました。生活資金においては、勤労世代の働き方に合わせてローンセンターによる平日夜間・日曜日の相談対応を実施し住宅資金の伸長に寄与しました。マイカーローンの「若者世代応援キャンペーン」を展開し、若年層の利用拡大や組合員加入を促進しました。

貯金残高 (単位：千円)

種類	当期末残高	前年比
当座性貯金	107,881,889	101.18%
定期貯金	124,792,304	94.42%
定期積金	2,652,046	86.38%
合計	235,326,240	97.30%

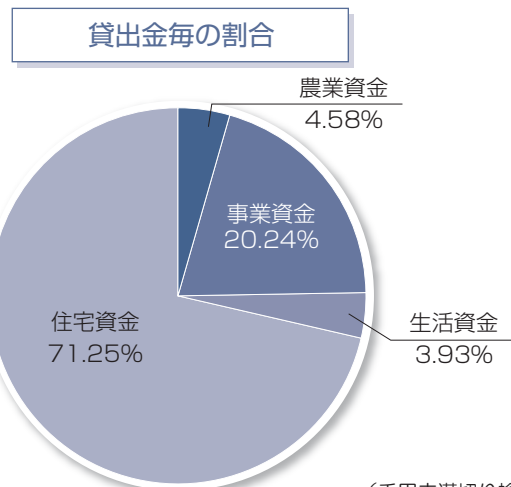
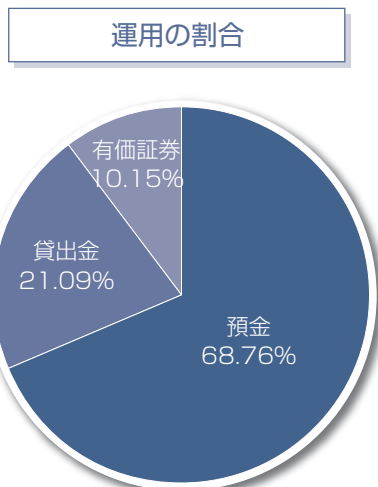


運用状況 (単位：千円)

種類	当期末残高	前年比
預金	159,626,702	95.17%
貸出金	48,967,860	108.15%
有価証券	23,568,882	85.54%

貸出金の内訳 (単位：千円)

種類	当期末残高	前年比
農業資金	2,241,743	96.04%
事業資金	9,913,531	124.11%
生活資金	1,924,817	106.11%
住宅資金	34,887,768	105.27%



(千円未満切り捨て)

共 済

J Aの設立理念でもある「相互扶助」と地元で親しまれる「地域密着」の対応、組合員・利用者の皆さまのニーズに寄り添った最適な保障提供や大規模自然災害に備えた損害調査態勢の整備に努めました。

普及面ではニーズの高い生存系保障において「がん共済」を中心に提案活動を展開しました。また、契約内容の確認や請求忘れを防止する寄り添い活動に力を入れました。

保全面では、契約・請求に関する円滑な引受と支払業務に尽力しました。共済金支払の傾向として、生命共済に関する支払いは前年度並み、建更共済金・自動車共済金は台風15号による風水害等のため支払件数は増加しました。

長期共済新契約高と保有高

(単位：件、千円)

種 類	新 契 約 高		当 期 保 有 高		
	件数	金額	件数	金額	
生 命 総 合 共 済	終 身 共 済	569	2,947,220	18,429	158,668,260
	定 期 生 命 共 済	55	843,000	521	6,274,210
	養 老 生 命 共 済	171	394,500	6,213	28,257,630
	こ ども 共 済	164	368,500	4,800	14,162,070
	医 療 共 済	628	13,000	11,763	3,705,050
	が ん 共 済	675	-	3,000	175,500
	定 期 医 療 共 済	-	-	373	779,900
	介 護 共 済	128	351,400	1,508	3,293,970
	認 知 症 共 済	17	-	134	-
	生 活 傷 害 共 済	48	-	515	-
	特 定 重 度 疾 病 共 済	88	-	1,132	-
	年 金 共 済	162	-	11,545	16,000
	建 物 更 生 共 済	1,125	14,938,600	23,008	354,467,670
合 計	3,666	19,487,720	78,141	555,638,200	

- (注) 1. 金額は保障金額(「がん共済」にあつてはがん死亡共済金額、医療共済および定期医療共済は死亡給付金額(付加された定期特約金額等を含む。)、年金共済は、付加された定期特約金額)です。
 2. こども共済は養老生命共済の内書きです。
 3. 平成5年度以前に契約された養老生命、こども、終身、年金の各共済契約については、生命総合共済に合算して計上しています。

皆さまに支払われた共済金 (単位：千円)

種 類	金額
満 期 共 済 金	3,676,909
年 金	1,614,409
死 亡 共 済 金	864,195
入・通院共済金	286,760
後 遺 障 害 共 済 金	9,247
そ の 他 給 付 金 等	139,120
建 更 共 済 金	104,656
自 動 車・自 賠 責 共 済 金	708,225
合 計	7,403,521

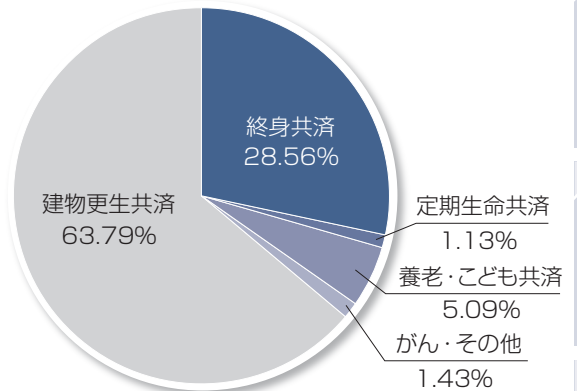
短期共済新契約高と保有高

(単位：件、千円)

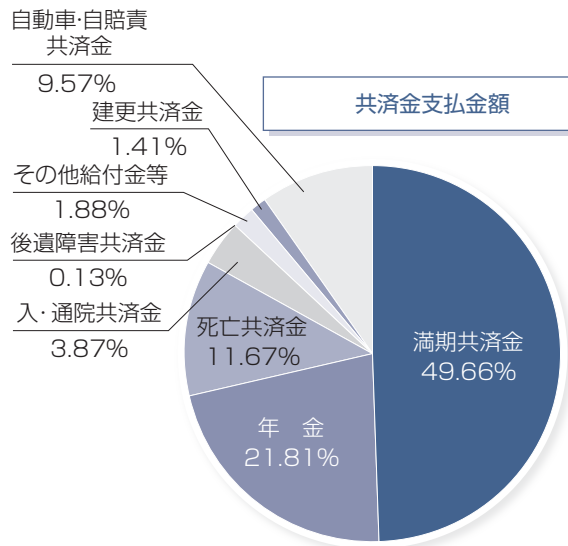
種 類	新契約件数(件)	新契約掛金	当期保有件数(件)	当期保有掛金
火 災 共 済	757	9,993	1,010	36,188
自 動 車 共 済	20,345	982,265	20,391	1,001,020
傷 害 共 済	5,837	6,156	927	5,841
個 人 賠 責 共 済	273	599	259	604
自 賠 責 共 済	8,224	140,555	16,197	281,733
合 計	35,436	1,139,570	38,784	1,325,388

- (注) 短期共済の新契約件数は、火災共済は目的件数、傷害共済は被共済件数、その他は証書件数です。

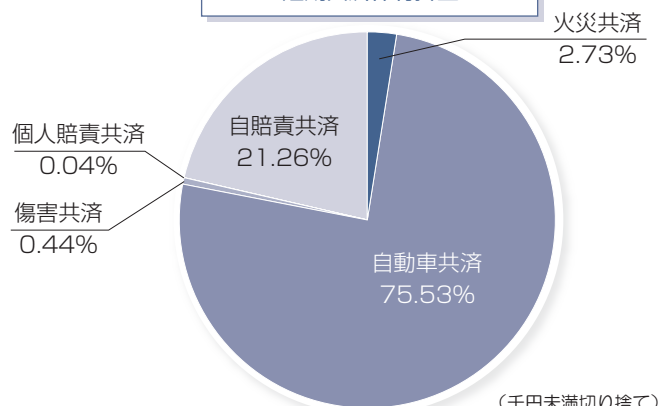
長期共済種類別保有高



共済金支払金額



短期共済保有掛金



(千円未満切り捨て)

総務

令和7年度は「JA遠州夢咲3か年計画 ～農業と地域の未来をつむぐ“協同の力”～」をスタートさせ、事業環境の変化に対応しうる経営基盤の構築をめざして事業運営の最適化に向けた実践や職員の帰属意識の醸成による協同活動の活性化、健全経営に向けた内部統制の確立・強化に取り組みました。また、JA事業に多様な意思を反映させるため、総代や役員における女性割合の向上に向けて女性参画を推進しました。

事業管理費については、経営環境に対応した中長期的な収支の見通しをふまえて業務効率化と費用削減に取り組みました。また、社会情勢をふまえて初任給を中心に職員の基本給を見直しました。

組合員利用者の皆さまが安心してご利用いただけるようにリスク管理態勢の強化による不祥事未然防止に向け、自律的コンプライアンスの確立と風通しの良い職場環境を構築し持続的な職場風土の改善に取り組んでいます。また、マネーロンダリングや金融犯罪に対する対策と防止に向けた呼びかけを行いました。

人材育成では職員のマネジメント力向上をめざした管理職研修に取り組みました。また、若年層教育として農業体験や農業関連資格の取得、農家研修などを実施し農業に関する理解度の向上に努め、職員が農家組合員の皆さまに知識をもって寄り添えるよう取り組みました。

監査

本年度は3線防御体制の効果的運用に向けて、2線・3線部署情報共有会議による2線部署（リスク管理部署・本店所管部署）との情報共有に努め、内部統制の整備状況に応じた効率的・効果的な監査の実施を心掛けてきました。

また、会計監査人監査では理事、監事、監査対象部署および会計監査人との緊密な情報共有と連携を図り、円滑な監査対応に努めました。

内部監査は、従来の「準拠性監査」から「業務プロセス監査」へ移行する過渡期となっているため、単なる法令遵守の確認にとどまらず、業務の流れや体制に踏み込み不備の根本的な原因の追究および改善に取り組みました。

また、不正やミスが発生しやすい高リスク項目に対して、JA全中提供の不正対応監査ツールを活用したリスクアプローチ監査の実施に向けて研究・検討を実施しました。

今後も新しい手法や制度を柔軟に取り込み、組合の経営目標の効率的かつ効果的達成へ貢献していく方針です。